

一般口演

(10) 主観的健康感を構成する因子とそれに与える鍼灸治療の影響についての調査

○佐藤 万代¹⁾, 山崎 翼²⁾, 木村 啓作³⁾, 岩 昌宏³⁾, 廣 正基³⁾,
片山 憲史³⁾, 矢野 忠³⁾

明治国際医療大学大学院統合医療学¹⁾, 明治国際医療大学大学院臨床鍼灸医学²⁾,
明治国際医療大学 健康・予防鍼灸学教室³⁾

要 旨

【はじめに】

近年、客観的評価に加え主観的評価の重要性が見直されており、その中でも包括的指標である主観的健康感が注目されている。

主観的健康感とは、疾患の有無にかかわらず、自身の健康状態を主観的に捉えた指標である。主観的健康感には、痛みやストレスなどが関連し、血液検査などの客観的指標とも相関を示すことが報告されている。また、その悪化が平均余命、日常生活動作にも影響するとの報告もある。以上のことから、鍼灸治療の主観的健康感への影響を明らかにすることは、予防医学的観点からも重要である。

そこで、過去の報告の多くが高齢者を対象にしていることから、青年期における主観的健康感を調査し、過去の報告と併せて、その構成因子を検討した。また、鍼灸治療の受診目的を調査し、主観的健康感の構成因子と比較することで、鍼灸治療が主観的健康感に与える影響についても検討した。

【方法】

調査は独自に作成した質問票にて行い、青年期を中心とした主観的健康感とそれに関連する因子についての質問票（以下、健康状態アンケート）と、鍼灸治療の目的を調査するための質問票（以下、鍼灸治療アンケート）を用いた。調査期間は平成21年6月21日～同年8月2日とした。

健康状態アンケートの対象は、明治国際医療大学学部生、事務職員とし、鍼灸治療アンケートの対象は同大学附属鍼灸センターの患者とした。回答形式は選択式回答法、自由回答法を用いた。

統計解析は、t検定、Pearsonの相関係数、重回帰分析（変数増加法）を用い、加えてオッズ比を求めた。

【結果】

健康状態アンケート：有効回答は502名（有効回答率87.8%）、25.4 ± 10.8歳であった。主観的健康感と他の項目で有意な相関を認めたものは、痛み、便秘、食事、睡眠、人間関係、疲労、ストレス、就労環境、不安、時間的・経済的余裕、疾病の数、服薬量であった。重回帰分析では、疲労、睡眠、人間関係、便秘、痛み、ストレス、食事が抽出された。

鍼灸治療アンケート：有効回答は164名（有効回答率92.8%）、64.1 ± 16.6歳であった。鍼灸治療の主な目的として、痛みの改善、身体的疲労の改善、病気の改善、ストレスの軽減、不安・精神的疲労の改善の順にあげられた。

【考察】

重回帰分析の結果、主観的健康感を構成する因子は年齢による相違をほとんど認めず、普遍的であることが示唆された。なお、鍼灸治療の目的としては、痛み、心身の疲労、病気、ストレスの軽減があげられたことから、鍼灸治療が主観的健康感を構成する因子である痛み、疲労、ストレスの軽減を通して、結果として主観的健康感に影響することが示唆された。